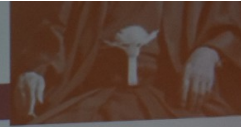


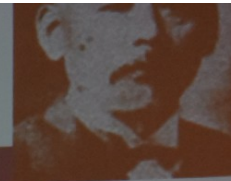
岡田茂吉(1882-1955)



土壌が本来もつ生育力を高めるために、化学肥料や農薬という自然に反する化学物質を用いず、土壌を清浄化させ、自然力を高めることによって、**大自然の摂理に適った生産方法、自然農法**を確立した。これは、農業生産の分野に止まらず、土壌・大気・水質の汚染防止や地球環の保全、さらには人間の健康の維持の視点からも有効な手段となった。こうして生産された農産物は、あるいはこれを原料に化学物質を用いないで生産された食品を摂取することで、**人間は健康へと導かれ、生命は健全に維持されることになる。**

健康な体とスピリチャルはきわめて密接に関連している。自然農法で生産された農産物は、化学物質が入っておらず、新鮮で愛情がこもっていて、農と医が分離されたものではない。そこには**スピリチャル**が介在する。

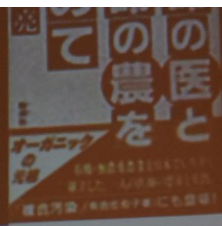
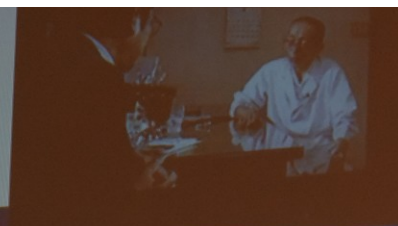
石塚左玄: 1851~1909



- 明治時代の日本の軍医・医師・薬剤師。**玄米・食養の元祖**で、会養会をつくり普及活動を行った。
- 陸軍で薬剤監となった後、食事の指導によって病気を治した。栄養学がまだ学問として確立されていない時代に食物と心身の関係を理論化し、医食同源としての食養を提唱した。「体育智育才育は即ち食育なり」と提唱した。「**食育食養**」を国民に普及することに努めた。
- **陰陽調和**: ナトリウムとカリウムのバランスが崩れすぎれば病気になるとした。
- **一物全体**: 一つの食品を丸ごと食べることで陰陽のバランスが保たれる。「白い米は粕である」と玄米の主食をすすめた。

梁瀬義亮

(やなせぎりょう) 1920~1993



- **農業の害**をうったえ、**有機農業**の研究をし、この実践をすすめ35年に「健康を守る会」を結成。有吉佐和子の「複合汚染」に紹介された。50年吉川英治文化賞。
- 患者の症状の観察と徹底した生活調査の中から、医学の発達に相反して有病率が急上昇していることや、難病、奇病が多発している現象の最大原因が、**農薬と化学肥料**による農作物であることに気付く。自らの体で**残留農薬**の毒性を確かめた。
- **近代農法**を「土を殺し、益虫を殺し、人を殺す死の農法」と警鐘し、池田首相に直訴し、全国を講演行脚した。
- 「生命の農」の研究に没頭し、**完全無農薬有機農法**の原理と方法を確立した。

竹熊宣孝(よしたか): 1934~現在



- 公立菊池養生園の医師。数多くの分かりやすい著書がある。「**土からの医療**」「**土からの教育**」「**見えるお金、見えないお生命**」「**健康とたべもの**」など。
- 人が健康であるためには、まず食べものが安全でなければならぬ。だからこそ、なによりもその源である農業が健全でなければならない。「いのち・食・農」、**医は農に農は自然に学ぶ**という理念をもつ。
- 医学にも、農業にも、教育の場にも生命の問いかけと、**生命の思想**がない、と語る。